

撰南経済研究第12巻第1・2号の刊行に当たり、一言申し上げます。撰南大学経済学部は、2010年4月に開設されました。従って、2022年3月で開設後、12年が経過したことになります。干支でいえば、一巡したのです。本刊が第12巻になっているのも、このためです。

この間、経済学部は順調に発展してまいりました。例えば、入学定員数は、当初の200人から、現在は280人となっております。この結果、卒業生は2,000人以上に達しているのですが、学生自身の努力、さらには本学各部門の全面的な支援もあって、就職率は常時9割以上を維持しております。

ただ、2020年度及び2021年度は、折からのコロナ禍ということもあり、教員・学生とも大変な苦労がありました。コロナ情勢に応じて、オンライン型、対面型、さらには双方を組み合わせたハイブリッド型など、目まぐるしく授業の形態を変化させざるをえなかったことなどです。しかし、こうした環境下にあっても、経済学部らしい教育が展開できたことも事実です。オンラインによるイタリアIULM大学でのWinter School、オンラインによる「実践演習発表会」、「経済学部研究発表会」などです。また、恒例となっている「撰南経済ゲスト・レクチャー」も開講することができました。

研究面でも、各教員はオンラインで研究会に参加され、発表を続けられました。経済学部教員が中心となり、他学部の教員とともに進めた淀川水系に関する研究が「SDGsで読み解く淀川流域」という著書として刊行されています。また、論文の執筆・刊行も順調に増加しております。以前にも増して研究面での成果はあがっていると申せましょう。

厳しい環境下、様々な創意工夫により教育・研究を続けてこられた教員の皆さん、さらには学生の皆さんに厚くお礼申し上げます。コロナ禍はいずれ収束するでしょう。収束後、本学経済学部が一層輝く学部になることを念じてやみません。